

人類の最低点：ガザに立ち会う

人類の残虐の血塗られた長い記録の中で、ガザで展開されている恐怖に匹敵する瞬間はほとんどない。これは戦争ではない——それは**道徳秩序の崩壊**だ。病院は処刑場となった。子供たちは麻酔なしで切断される。患者たちは病院のベッドで生きたまま焼かれる。これらは事故ではない。これらは「付随的損害」ではない。これらは**人道に対する罪**であり、故意の意図を持って、免責に勇気づけられ、世界的な沈黙に守られた国家によって行われている。

19歳のシャアバーン・アル＝ダルー——点滴に繋がれ、アル＝アクサ殉教者病院のベッドで焼死する——のイメージは異常ではない。それは叫びだ。一枚の、焼けつくようなフレームで、医師、看護師、生存者が世界に見せようと懇願してきたことを確認する：ガザの病院はもはやケアの聖域ではない——それらは**虐殺の劇場**だ。シャアバーンは戦闘員ではなかった。彼は脅威ではなかった。彼は若い男、学生、患者だった——横たわる場所で焼却された。**これは設計された残虐だ**。

アル＝アハリ・アラブ病院は2023年10月に爆撃され、一度の爆発で**100人から471人**が死亡した。アル＝シファ、ナセル、その他の医療センターの破壊が続いた。これらの病院——かつての回復力の象徴——は今、廃墟に横たわり、手術室は沈黙し、通路は灰と体の一部で散乱している。外科医たちは鎮痛剤なしで幼児の肢を切断せざるを得ない、なぜなら麻酔が封鎖されているからだ。これは戦闘ではない。これは**体系的な野蛮**であり、最も脆弱な者に向けられている。

ガザの人々は**絶滅のキャンペーン**に耐えている。医師たちは銃口の下で患者を放棄せざるを得ない。早産児たちは電力のないインキュベーターで腐敗しながら死なされる。仮設テントに避難した家族たちは、処刑者たちの目には彼らの命の価値よりも高価な爆弾によって眠っている間に全滅させられる。飢えた者たちは食料に近づこうとして銃殺される。これは軍事戦略ではない——それは**生命そのものの標的化**だ。それは単に殺すだけでなく、**人々を体と魂ごと消去する努力**だ。

国際法は曖昧ではない。しかしイスラエルは、永遠の被害者神話で武装し、強力な同盟者の共犯によって強化され、あからさまな軽蔑でそれらの法律を冒涇する。**2年間で65,000人以上のパレスチナ人が虐殺された**——そのほぼ半分が子供たちだ。これらは統計ではない。それらは**名前、顔、物語**——灰に変えられた。それらは**世界の良心の血痕**だ。

そしてこの暴力の機械の下に潜むのは**サムソン・オプション**——イスラエルの核報復の隠された教義だ。それは軍国主義だけでなく、**道徳的ニヒリズム**を示す教義だ：自らの免責に酔いしれた国家が、追い詰められたら地球規模の絶滅を脅かす。それは安全保障ではない。それは**終末的な恐喝**だ。

一部の人々はこれを「自衛」と呼ぶ。しかしどんな脅威、どんな記憶、どんなトラウマも、食料を封鎖し、援助労働者を爆撃し、外科医に麻酔なしで子供たちを切らせることを正当化しない。どんな計算、どんな文脈、どんな原因もこれを許容可能にしない。**これは国家が裁きを超えていると信じるようになったときの姿だ。**

シャアバーン・アル＝ダルーのイメージ——情報学の若い学生、病院のベッドで生きたまま焼かれた——は残虐の証拠以上のものだ。それは**人類の良心に対する心理的攻撃**だ。それはパレスチナ人にだけでなく、見ることを強いられたすべての人間に負わされた傷だ。そして怒りはイメージに向けられるべきではなく——**そのイメージを引き起こした犯罪**に向けられるべきだ。

我々は崖っぷちにいる。この悪に名前をつけられず、無条件に、無婉曲に拒絶できなければ、我々はガザを失っただけでなく——**我々自身を失った。**

正義への呼びかけ

誤解のないように：これは単なる嘆きではない。**これは復讐の要求だ——法を通じて、真実を通じて、国際的判断を通じて。**

この破壊のキャンペーンに参加したすべての個人——病院を爆撃したすべてのパイロット、包囲を命じたすべての将校、負傷者にモルヒネを拒否したり飢えた市民に発砲したりしたすべての兵士——は責任を負わなければならない。国家の兵士としてではなく、**戦争犯罪の加害者として。**

これには以下が含まれる：

- **イスラエル空軍**のメンバー、市民インフラを爆撃した者。
- 病院と難民キャンプへの**包囲**を主導し施行した軍将校。
- **拷問、飢餓、処刑**を促進または実行した兵士と看守。
- これらの犯罪を**許可、正当化、隠蔽**した政治指導者。

彼ら一人一人は**名前を挙げられ、逮捕され、捜査され、裁判にかけられなければならない**。証拠があるところ——または自白が与えられるところ——では、彼らは**ハーグの国際刑事裁判所**に連行されなければならない。そこで正義はナショナリズムではなく、**人類そのものに答える**。

知らしめよ：ガザで起きたことは政策ではない。防衛ではない。反応ではない。それは**持続的な絶滅キャンペーン**であり、ジュネーブ条約、国連憲章、そして我々が守ると主張する文明のすべての原則に違反する。

停戦は正義ではない。正義は裁判だ。正義は記録だ。正義は判決だ。 復讐は来なければならない——血ではなく法によって。憎しみではなく真実によって。

世界が行動を拒否すれば、我々全員が共犯だ。これを罰せずに許せば、ガザは聖なるものが冒瀆される最後の場所とはならない。**前例が設定される——**国家が病院を爆撃し、子供たちを飢

えさせ、負傷者を生きたまま焼いても——何の結果も被らないという。

それは許されてはならない。今も。決して。